

都市システム科学域

平成 25 年度（2013 年度）アニュアルレポート

■都市環境科学研究科都市システム科学域スタッフリスト（五十音順）

饗庭 伸（あいば しん）	准教授
市古 太郎（いちこ たろう）	准教授
伊藤 史子（いとうふみこ）	教授
小根山 裕之（おねやま ひろゆき）	教授
加藤 覚（かとう さとる）	教授
竹宮 健司（たけみや けんじ）	教授
玉川 英則（たまがわ ひでのり）	教授
長野 基（ながの もとゐ）	准教授
星 旦二（ほし たんじ）	教授
山本 薫子（やまもと かほるこ）	准教授

上記のうち、小根山、加藤、竹宮の3教授は他学域を併任している。うち小根山教授については、都市基盤環境学域のアニュアルレポートを参照してほしい。

以下は、教員毎のプロフィールと 2013 年度の研究の紹介である。

【饗庭 伸】

1) スタッフ紹介

饗庭伸(あいばしん) 准教授/博士(工学)

都市計画, まちづくり, 都市計画制度

9 - 566室 TEL:042-677-2359 aib@tmu.ac.jp

2) 研究概要

1. 震災復興に関する研究

饗庭伸

東日本大震災の復興過程を対象に、復興の実態調査や復興計画立案手法について研究を行った。成果を雑誌や学会等に発表したほか、岩手県大船渡市綾里地区において復興まちづくり計画策定の支援を行った。また、伊豆大島において緊急調査を行った。

2. 人口減少時代における都市計画のあり方に関する研究

饗庭伸

人口減少時代における都市空間のあり方やモデルをふまえ、都市計画や都市空間デザインの方法について理論的な検討を、日本建築学会の特別研究委員会等で行った。結果を日本建築学会のシンポジウムにおける講演や、著作として発表した。

3. 都市建築ストック活用型都市計画に関する研究

饗庭伸

市街地に増加する空家等の都市建築ストックの利活用および除去について、都市計画的視点からアプローチする計画技術の開発と実践を行った。具体的には大都市郊外の空家ストック再生の実験、地方都市中心部における空家等の利活用、除去のマスタープランの作成にかかる市民参加手法の開発等を行い、成果を学会誌に発表した。

4. 東アジア諸国のまちづくりの歴史に関する比較研究

饗庭伸

台湾, 韓国, 日本の3カ国を対象に, 戦後のまちづくり(台湾では「社区营造」, 韓国では「マウルマンドウルギ」)の比較研究を行った。これまで積み重ねてきた現地調査の知見をまとめ、書籍としてとりまとめる執筆を行った。

5. まちづくりの技術開発に関する研究

饗庭伸

市民とまちづくりの情報を共有する手法についての技術開発を行い、実証実験を行い、結果を学会等で発表した。具体的には、スマートフォンを用いて景観に関する情報を収集するデータベースのシステム(東京都世田谷区)で実践的に手法の検証を行った。

3) 成果リスト

1. 審査論文

RikutaroManabe, Shin Aiba, and Fumiko Ito, Keikan-Brain,” a Device that Builds Knowledge and Consciousness about a Townscape, PROCEEDINGS OF CUPUM 2013, データで刊行, 2013年7月

高橋亮介・石橋一希・杉山龍・饗庭伸, 「空き家活用まちづくり計画」作成への市民参加手法の開発, 日本建築学会技術報告集 20(44), 273-278, 日本建築学会, 2014年2月

2. 口頭発表

支媛・饗庭伸, 東日本大震災復興過程における仮設住宅団地の支援事業に関する研究—大船渡市における北上市沿岸被災地仮設住宅運営支援事業を対象に—, 地域安全学会研究発表会, 2013年10月

合木純治・丸茂友紀・鈴木翔大・饗庭伸・寺澤草太, 復興まちづくり計画の作成プロセスと成果—大船渡市三陸町綾里地区の復興まちづくり研究(その1)—, 日本建築学会大会学術講演梗概集, F分冊, no. 6041, 2013年7月

蔡雅静・饗庭伸, 大都市における地下街の変遷と今後のあり方に関する日中比較研究—東京と上海のケースを中心に—, 日本建築学会大会学術講演梗概集, F分冊, no7310, 2013年7月

寺澤草太・鈴木翔大・饗庭伸, ソウル市における公共空間利用に関する調査研究—新市街地と旧市街地の歩道空間利用に関する比較研究—, 日本建築学会大会学術講演梗概集, F分冊, no7223, 2013年7月

井上絹子・真鍋陸太郎・饗庭伸・伊藤史子・讃岐亮，木造密集市街地における災害発生時の住民の見回り行動とまちの認識に関する研究その 2、防災パトロールワークショップの結果から見るまちの認識，日本建築学会大会学術講演梗概集，F分冊，no7161，2013年7月

真鍋陸太郎・井上絹子・饗庭伸・伊藤史子・讃岐亮，木造密集市街地における災害発生時の住民の見回り行動とまちの認識に関する研究その 1、防災パトロールワークショップ手法，日本建築学会大会学術講演梗概集，F分冊，no7160，2013年7月

藤谷幹・伊藤史子・真鍋陸太郎・饗庭伸，景観脳育成支援システムを用いた景観要素抽出手法の提案 景観脳育成支援システムの開発に関する研究 その 4，日本建築学会大会学術講演梗概集，F分冊，no7116.，2013年7月

井上絹子・饗庭伸・伊藤史子・讃岐亮・小山弘美・寺内義典・真鍋陸太郎・近江屋一郎，木造密集市街地における災害発生時の住民の見回り行動とまちの認識に関する研究，こども環境学研究，第9巻第1号，p99，2013年4月

丸茂友紀・藤谷幹・梅村珠恵・饗庭伸，こどもが設計・施工・運営する空き家を活用した「こどもカフェ」，こども環境学研究，第9巻第1号，p101，2013年4月

Shin AIBA, Hirotaka IKEDA, Shuhei KIMURA, Shosuke SATOH, Reconstruction Machizukuri from the Great East Japan Earthquake in Ofunato' s Ryori Village, Proceedings of the 9th Conference of the Pacific Rim Community Design Network the Rinari workshop, pp.17-20, The 9th International Conference of the Pacific Rim Community Design Network 2014年3月

3. その他

3-1. 専門書

饗庭伸，建築と人をつなぐ、まちづくりの仕事，「ようこそ建築学科へ！」に寄稿，学芸出版社，2014年3月

東京の都心再生を歩く（季刊まちづくり），饗庭伸（編著）・他，学芸出版社，2014年1月
復興まちづくり3年目の課題（季刊まちづくり），饗庭伸（編著）・他，学芸出版社，2013年7月

3-3. 解説・評論・一般論文

饗庭伸，流体的近代と集合住宅，ハイライフ研究，16号，p14-19，ハイライフ研究所，2014年3月

饗庭伸，震災復興におけるまちづくりのあり方，日本災害復興学会誌 復興，第9号 (Vol. 5 No. 3)，p. 65-72，日本災害復興学会，2014年3月

饗庭伸, 低平地の課題 近代復興から非営利復興へ, 建築雑誌 8Vol. 129 No. 1655 P16-17 日本建築学会, 2014年1月

饗庭伸, まちづくりの実現手段としての空き家活用, 都市問題, 第 104 巻 第 4 号, pp. -70-78, 後藤・安田記念東京都市研究所, 2013年4月

4) 特定学術研究

文部科学省科学研究費 (基盤研究C)

饗庭伸 (代表)・伊藤史子 一般市街地における景観形成行動を支援する市民参加型都市景観データベース技術の開発 80千円

5) 指導学位論文リスト

修士 (都市科学)

支 媛 「仮設住宅団地の支援事業とその利用実態に関する研究 ー北上市沿岸被災地 (大船渡市)仮設住宅運営支援事業を対象に」

合木純治 「東京都区部の当初指定に着目した容積制と都市空間の関係」

鈴木翔大 「中小ビル集積地におけるテナント変容の実態と建築ストックの関係 ー東京都神田周辺地域を対象としてー」

寺澤草太 「東日本大震災からの商業復興における仮設商店街の果たす役割 ー岩手県沿岸南部3市を対象としてー」

丸茂友紀 「所有者の意思決定に着目した地域活動拠点としての住宅活用における合意形成プロセスの分析」

【市古 太郎】

1) スタッフ紹介

准教授, 市古 太郎 (いちこ たろう) / 博士 (都市科学)

都市防災計画、災害リスク管理、事前復興まちづくり

9号館553室、(042)677 1111 内線 4272 ichiko-taro@tmu.ac.jp

2) 研究概要

1. 東日本大震災津波被災地における避難行動実態調査

3.11 に発生した東日本大震災の津波被害では、避難行動が生死をわけている。内閣府による調査等も実施されているものの、民政児童委員や消防団の対応など、「他者を助ける」行動をとられた方々の判断構造が明らかとなっていない。そこで学外の防災研究者と調査チームを結成し、平成 23, 24 年度に引き続き、岩手県野田村、山田町、宮城県石巻市で聞き取り調査を進めた。

加えて平成 25 年度は日本建築学会年次大会にて口頭発表を行った。

2. 事前復興まちづくりに関する研究

首都直下地震による甚大な被害想定を前にして、被害をゼロに抑えることは不可能であり、「事前から復興に備える」という視点から間接被害を軽減化するため、住民、行政、専門家のまちづくり手法を開発するものである。

平成 25 年度は、豊島区雑司ヶ谷霊園南地区で復興まちづくり訓練の企画運営に従事し、統廃合により施設転換計画のある小学校用地の「時限的市街地」プランに研究としてフォーカスし、ワークショップを実施した。また平成 24 年度に引き続き、東京都都市整備局の都市復興図上訓練（品川区荏原町地区）の運営に協力し、大地震後の復興都市計画の策定について、検討をおこなった。

3. ポスト 3・11 都立高校における災害想像力と対応力向上のための学習プログラムの開発

東日本大震災では、公共交通機関の運休により、都内で帰宅困難となった児童生徒が多数発生した。東京都教育庁の調査によれば、発災翌日の 3/12 の 13 時半時点で、学校で待機していた生徒数は、都立高校で 7,288 人、中等教育学校で 610 人、都立中学校で 68 人と報告されている。その一方、帰宅支援ステーションとなった都立高校において、飲料水や毛布の配布など、生徒がボランティアとして活動した学校が 8 校という報告もなされている。

このような状況を踏まえ、来たる首都直下地震時の児童生徒の初動対応について、教育庁、学校、家庭、地域、それぞれのレベルで、3.11 を教訓として、これまでの備えを再点検し、対策に取り組んでおく必要がある。

本研究では、大災害時の学校周辺での被害をイメージし、登下校時の対応判断能力を向上させること、災害時に高校生徒にできる社会貢献を自ら考えていくための方法論を開発

するものである。

平成 25 年度は昨年度に引き続き、都立永山高校で防災モデル授業を企画実施した。2 年目となる本年度は「永山高校 災害避難所化大作戦計画 WS」を実施し、高校スタッフのみで防災授業の組み立てと実施ができるよう考察と提案をおこなった。また平成 25 年度地域安全学会春季大会で成果発表をおこなった。

3) 成果リスト

1. 審査論文

市古太郎, 讃岐亮, 吉川仁, 中林一樹 (2013) 中高層分譲集合住宅での「自宅生活継続に備える」ワークショップ手法の開発, 地域安全学会論文集 No. 21, pp. 71-79

2. 口頭発表

Taro ICHIKO (2013) What can planners do for post-disaster recovery? accompany-with approach as a context of Japanese planning realm, iscp2013, Special Session, <http://www.cpij.or.jp/com/iac/sympo/13/specialsession.html>

市古太郎 (2013) 「住民オーラル調査に基づく東日本大震災津波避難における家族介助と共助行動への視線」, 日本建築学会大会梗概集 (都市計画), 2013/8

市古太郎, 大木幸子, 連建夫 (2014) 「気仙沼階上杉の下集落における住まい再建支援」日本建築学会 復旧復興支援まちづくり展, ポスター発表

市古太郎 (2013) 「できますゼッケンを用いた避難所運営イメージトレーニング」, 地域安全学会学術研究発表会 (男鹿), pp. 145-146, 2013/5

3. その他

3-2. 研究報告

市古太郎 (2013) 八王子市での事前復興まちづくりの展開, 季刊まちづくり, 38 号, 学芸出版社, PP. 88-95

市古太郎, 片桐由希子, 饗庭伸 (2014) 2013 年伊豆大島台風 26 号の初動調査報告, 季刊まちづくり, 41 号, 学芸出版社, PP. 128-129

4) 特定学術研究

(受託研究費による研究) 2件・550万円(研究代表)

委託元：豊島区都市計画課，八王子市

(文部科学省科学研究費) 3件・200万円

研究代表者，基盤C，スマトラ島西部地震からの現地漸進型と集団移転型集落再建プロセスの空間論的比較分析(2011-2013年度)

研究分担者，基盤A，北リアスにおけるQOLを重視した災害復興政策研究—社会・経済・法的アプローチ(2012-2014年度)

研究分担者，基盤C，岩手沿岸北部被災地復興における地域連携型のコンパクトな居住モデルの導出(2012-2014年度)

5) 指導学位論文リスト

修士(都市科学)

サチルラト 「過疎・高齢化農山村地域の集落復興に関する研究—長野県北部地震後の栄村青倉・小滝集落を対象として—」

【伊藤 史子】

1) スタッフ紹介

伊藤 史子(いとう ふみこ) 教授/博士(工学)

都市計画，都市解析，住環境分析，プロジェクトの経済分析に住宅)の需給に関する研究

9-558室 TEL:042-677-1111 内線4273 itofumi@tmu.ac.jp

2) 研究概要

1. 都市環境・住環境に関する研究

伊藤史子

本研究は、都市の状態、住民や訪問者の評価、それらの関係を分析することにより、快適な住環境の構築への示唆を得るものである。2013年度は以下の成果を得て学会等におい

て発表公表した。

1.1 持続可能な住環境

・環境配慮型の住宅地としてエコシティを取り上げ、中国と我が国の事例をもとに特徴を分析した。文化継承型と省エネ・環境型の両立という論点が抽出された。

・住環境のうち持続性の観点から電気自動車（EV）の普及可能性の分析を行い、EV購入は費用・走行距離の両条件に大きく規定されることが明らかとなり、これらが普及の地域要因と結びつくことを示した。

1.2 都市環境や住環境の心理

・街路形状と印象の関係を分析し、街路ネットワークの複雑性が街路景観の印象の総合評価にプラスの影響を与え、歩行欲求を高めることを明らかにした。

・訪問者の商店街評価の心理分析を行い、商店街における「溢れ出し」が適切な分量であれば店舗と商店街それぞれの魅力を高めることを明らかにした。

・都市環境を住民や訪問者が評価し共有するシステムを提案し、その実証研究を行った。

2. 都市環境やプロジェクトの評価に関する研究

伊藤史子

本研究では、都市環境やそれを形成する様々なプロジェクトの評価を経済的な手法等を用いて行い、プロジェクト実施に際しての示唆を得ることを目指している。2013年度は以下の成果を得て学会等において発表公表した。

2.1 歴史的住宅建築の賦活

・中国の歴史的住宅建築である四合院について、居住者意識調査分析、および、それらの建築の周辺環境に与える影響分析を行った。居住メリット・デメリットの詳細、および、四合院建築は商業環境には影響無く住環境に正の影響を与えることを明らかにした。

2.2 中山間地の継続的な活性化事業の効果

・中山間地の活性化事業を長期継続的に実施することは住民の意識に着実な変化をもたらすことをヒアリング調査と言説分析から明らかにした。

3. 住宅の需給構造に関する研究

伊藤史子

・東京都内の中古住宅を事例として需要・供給分布の地域的特徴を抽出すると同時に、供給情報をもとに市場における中古住宅の特徴を分析した。（本研究はFRK研究助成を受けており2014年度も継続する）。

3) 成果リスト

1. 審査論文

伊藤史子・藤木悦史(2013) 「街路ネットワークの複雑性と街路景観の印象評価の関連性」、『日本都市計画学会学術研究論文集』, Vol.48-No.3, 327-332.

Manabe, R., Aiba, S and Ito, F. (2013) "Keikan-Brain," a Device that Builds Knowledge and Consciousness about a Townscape. "CUPUM2013", CD-rom.

Tsuchiya, Y., Ito, F., Tagashira, N., Baba, K and Ikeya, T. (2013) "Analysis of Purchase Preferences for Electric Vehicles and Its Determinant Factors" 20th ITS WORLD CONGRESS TOKYO 2013.

2. 口頭発表

スビナハイレト・土屋依子・伊藤史子(2013) 新疆ウイグル自治区におけるウイグル族の住文化保全に関する研究—トルファン市の歴史文化保全地区とトルファンエコシティ(新区)を対象として—、環境情報科学ポスターセッション。

西尾尚子・伊藤史子(2013) 都市環境の評価や制御のための天空率詳細分布算出システムの提案、環境情報科学ポスターセッション。

Nishio, S. and Ito, F. (2013) Relation between the change in sky factor and impression while walking, Joint Meeting of Korean, Chinese and Japanese Scholars, Development and Corporation among the Mega-cities in East Asian Countries.

Ito, F. (2013) Hednic Price Analysis on the Environmental Value of Historical Courtyard Houses in Beijing, Joint Meeting of Korean, Chinese and Japanese Scholars, Development and Corporation among the Mega-cities in East Asian Countries.

藤谷・伊藤・他2名(2013) 景観脳育成支援システムを用いた景観要素抽出手法の提案—景観脳育成支援システムの開発に関する研究(その4)—、日本建築学会大会学術講演梗概集、231-232.

真鍋・伊藤・他4名(2013) 木造密集市街地における災害発生時の住民の見回り行動とまちの認識に関する研究—(その1)防災パトロールワークショップ手法—、日本建築学会大会学術講演梗概集、319-320.

井上・伊藤・他3名(2013) 木造密集市街地における災害発生時の住民の見回り行動とまちの認識に関する研究—(その2)防災パトロールワークショップの結果から見るまちの認識—、日本建築学会大会学術講演梗概集、321-322.

田辺茜・伊藤史子・土屋依子(2013) 継続的な活性化事業による中山間地域の意識変化

－大地の芸術祭を事例として－、日本建築学会大会学術講演梗概集、329-330.

金井佑輔・伊藤史子（2013） 小規模小売店舗におけるあふれ出しの魅力－高円寺の商店街を対象として－、日本建築学会大会学術講演梗概集、755-756.

伊藤史子（2013） 歴史的住宅建築とともに暮らすライフスタイルに関する考察－中国北京市の「四合院」周囲の不動産価格を用いたヘドニック価格分析－、日本建築学会大会学術講演梗概集、選抜梗概、293-296.

3. その他

3-3. 解説・評論・一般論文

西尾尚子・伊藤史子（2013） 「Google ストリートビューのパノラマ画像を利用した天空率算出システムの提案」、『地理情報システム学会講演論文集』、Vol122、C-6-4。

4) 特定学術研究

独立行政法人科学技術振興機構（JST）社会技術研究開発事業、「健康長寿を実現する住まいとコミュニティの創造」（代表：伊香賀俊治教授（慶応大学））、2012年10月～2015年9月、研究開発実施者（共同研究者）。

文部科学省科研費（基盤C）、「一般市街地における景観形成行動を支援する市民参加型都市景観データベース技術の開発」（代表：饗庭伸准教授）、2011年-2013年、研究分担者。

不動産流通経営協会研究助成事業「消費者の中古住宅の購入に影響する物件属性要因に関する調査分析」、2013年10月 - 2014年9月、研究代表者。

5) 指導学位論文リスト

修士（都市科学）

岡野麻奈 「多摩ニュータウンの人口変化に応じた小学校の時系列的再配置の最適化」

市川拓弥 「1920年代から現在に至る地名変遷の分布と地域特性の関連性 －東京区部を対象として」

祖運奇 「東京区部における都営バスの利用分布と地域特性の関連性」

【加藤 覚】

1) スタッフ紹介

加藤 覚 (かとう さとる) 教授 / 工学博士

化学工学, 相平衡, 情報学

9-148 室 TEL : 042-677-2824 kato-satoru@tmu.ac.jp

2) 研究概要

1. イオン液体中のチオフェン, 二酸化炭素, 水に対する無限希釈部分モル過剰エントロピー/エンタルピー補償

加藤 覚

イオン液体中においてチオフェン, 二酸化炭素などの極性溶質およびヘプタン, トルエンなどの無極性溶質の無限希釈部分モル過剰エントロピーとエンタルピーには補償関係が成り立つことを無限希釈活量係数の温度依存データから明らかにした。水+イオン液体系では収束性の高いエントロピーとエンタルピーの直線関係が得られた。チオフェンおよび二酸化炭素を無極性溶媒混合物からイオン液体による抽出あるいは吸収操作によって除くためにはチオフェンおよび二酸化炭素に対する分子間相互作用が弱いイオン液体を選択すると有利であることを補償則から明らかにした。

2. 二酸化炭素を含む高圧 2 成分系気液平衡 P, x データと Margules 式を用いる気相モル分率の推算

加藤 覚

二酸化炭素を含む 2 成分系高圧気液平衡 P, x データを Margules 式によって相関できることを示した。この方法による相関精度は状態方程式と混合則を用いる従来の方法より高い。また, 非対称系に対して気相のモル分率を正しく推算できることを示した。従来, 広い温度範囲と圧力範囲に対する気液平衡データの高精度相関法は見出されていない。本研究は, 無限希釈圧力勾配と臨界点到達率に対するデータ相関の収束性が著しく高いことを見出し, 気液平衡関係の高精度相関法として有望であることを示した。

3. 熱力学健全性判定直線を用いる 2 成分系気液平衡データに対する経験的健全性判定法

加藤 覚

気液平衡 (VLE) 実測データの熱力学健全性を明らかにできる熱力学健全性判定直線の決定法を見出した。極性排除因子と圧力の間には温度、圧力、相の種類によらない 2 成分系に固有な直線関係が成り立つことを VLE 全文献データを用いて示した。また、熱力学健全性判定直線を VLE と LLE の推算に利用する方法を示した。さらに、集中化非理想性パラメータ法により高圧 VLE データが簡便に相関できることを示した。

4. 酵素のエナンチオ選択性に対する非プロトン性イオン液体の影響

乗富秀富, 知場秀起, 菊田 学, 加藤 覚

異なったエナンチオマーやジアステレオマーは異なった生理活性を発揮することが多いので、エナンチオ選択的合成は現代化学とりわけ製薬の分野で重要である。タンパク質分解酵素の 1 つである α -キモトリプシンはイミダゾリウム系イオン液体中においてイオン液体のアニオン効果により数百から数万の広範囲で異なったエナンチオ選択性を示すことを発見した。

5. 植物バイオマス炭への α -キモトリプシンの吸着

乗富秀富, 菱沼慶人, 栗原駿一, 西上純平, 竹本哲也, 遠藤信行, 加藤 覚

サトウキビ搾汁後の残渣であるバガスから調製された炭は、塩基性タンパク質である α -キモトリプシンに対して優れた吸着能を発揮することを見出した。炭表面の細孔特性や表面化学特性の分析結果と CT の構造に基づいて検証したところ、炭表面と酵素タンパク質の官能基間における静電相互作用や水素結合が吸着の主な要因であることが判明した。

6. アルキルグルコシド油中水滴型マイクロエマルジョンの形成と可溶化特性

乗富秀富, 石田有紀, 山田智和, 斎藤裕昭, 加藤 覚

生分解性で低刺激性のアルキルグルコシド (AG) は水中で示す強い洗浄力を利用して食器用洗剤やシャンプーなどに用いられているが、この界面活性剤が油中で安定なマイクロエマルジョンを形成することを見出した。また、水や水溶性顔料の油相への AG の可溶化能は AG 分子の疎水基の形状や大きさに強く依存した。さらに、AG マイクロエマルジョンは水相から油相にタンパク質を選択的に抽出することができた。

7. 銀ナノ粒子合成へのアルキルグルコシド逆ミセルの応用

乗富秀富, 宮川紗織, 伊賀利直広, 斎藤裕昭, 加藤 覚

生分解性で低刺激性のアルキルグルコシド (AG) により形成された逆ミセルの内水相が安定な銀ナノ粒子の反応場として働くことを発見した。合成された銀ナノ粒子のサイズは AG

分子の疎水基の形状や大きさ，反応温度，含水量，還元剤の種類にそれぞれの依存性を示した。さらに，我々が開発した逆ミセル固液抽出法を本系に採用することにより従来の注入法に比べて単位反応溶媒体積当たり 100 倍以上の生成量を実現することができた。

8. 界面活性剤を用いた高濃度タンパク質の高効率リフォールディング

乗富秀富，加藤義之，加藤 覚

大腸菌などにより産生させた封入体である変性タンパク質の凝集体から活性なタンパク質を再生させるためには，従来高濃度の変性剤により凝集体を一端溶解させた後再凝集を抑えながら大量の水で希釈する大希釈法が行われている。この方法では部分的に再生された低濃度タンパク質水溶液しか得られず，再生プロセスのスケールと時間，コストの面で大きな問題となっていた。本研究では，界面活性剤の可溶化・分散能を利用して変性剤無添加系で従来法に比べて 100 倍濃厚な再生タンパク質を高効率で生産することに成功した。

3) 成果リスト

1. 査読付論文

加藤 覚, Peter Gostomski, Akiyoshi Oda, Joerg Freitag, Seiya Hirohama, David Bluck 2013 高精度相関線を用いる相互溶解度と定圧気液平衡の推算, *Fluid Phase Equilibria*, 357, 36-42.

加藤 覚 2013 気液平衡データ，測定法，測定装置，計算法の現状と今後の課題，*化学工学*, 474-477.

Hidetaka NORITOMI, Hideki CHIBA, Manabu KIKUTA, Satoru KATO 2013 How can aprotic ionic liquids affect enzymatic enantioselectivity?, *J. Biomedical Sci. Eng.*, 6, pp.954-959.

Hidetaka NORITOMI, Keito HISHINUMA, Shyunichi KURIHARA, Jumpei NISHIGAMI, Tetsuya TAKEMOTO, Nobuyuki ENDO, Satoru KATO 2013 Adsorption of α -chymotrypsin on plant biomass charcoal, *J. Surf. Eng. Mater. Adv. Technol.*, 3(4), pp.269-274.

Hidetaka NORITOMI, Yuki ISHIDA, Tomokadzu YAMADA, Hiroaki SAITO, Satoru KATO 2013 Formation and solubilization property of water-in-oil microemulsions of alkyl glucosides, *Advances in Nanoparticles*, 2(4), pp.366-371.

Hidetaka NORITOMI, Saori MIYAGAWA, Naohiro IGARI, Hiroaki SAITO, Satoru KATO 2013 Application of reverse micelles of alkyl glucosides to synthesis of silver nanoparticles, *Advances in Nanoparticles*, 2(4), pp.344-349.

Hidetaka NORITOMI, Reona ISHIKAWA, Daiki IWAI, Nobuyuki ENDO, Satoru KATO 2013

Activity and stability of HEWL adsorbed onto plant biomass charcoal, , Enzyme Engineering XXII, Poster Number 69, Toyama.

Hidetaka NORITOMI, Yoshiyuki KATO, Satoru KATO 2014 Efficient protein refolding using surfactants at high final protein concentration, J. Surf. Eng. Mater. Adv. Technol, 4(1), pp. 9-13.

2. 口頭発表

加藤 覚 2013 熱力学健全線を用いる 3 成分系液液平衡の推算, 分離技術会年会 2013, 講演要旨集, SI-8.

加藤 覚, 八木宏 2013 熱力学健全線による相平衡の推算, 分離技術会年会 2013, 講演要旨集, SI-P4.

加藤 覚, 倉持秀敏 2013 非対称 2 成分系気液平衡の推算-熱力学健全線法と UNIFAC 法の比較-, 分離技術会年会, 講演要旨集, SI-P5.

加藤 覚 2013 抽出最前線-抽出剤選択と熱力学健全線-(基調講演), 分離技術会年会講演要旨集, S5-1.

加藤 覚, 八木宏 2013 熱力学健全線を用いる UNIFAC データの健全性判定と相平衡推算, 石油学会北九州大会, 講演要旨集, P20.

市川正浩, 加藤 覚, 栗田翔 2013 CO₂ 臨界点近傍における CO₂+メタノール系気液平衡の測定, 石油学会北九州大会, 講演要旨集, P21.

加藤 覚 2013 熱力学健全線を用いる液液分配係数の推算, 化学工学会第 45 秋季大会, 講演要旨集, XG303.

加藤 覚 2013 TC ラインを用いる正確な気液平衡の推算, 化学工学会第 79 年会, 講演要旨集, I124.

乗富秀富, 岩井大輝, 菱沼慶人, 遠藤信行, 加藤 覚 2013 年 5 月 低温創製バイオマス炭の構造と酵素タンパク質の吸着挙動, 分離技術会年会 2013, S4-P1, 千葉.

西上純平, 乗富秀富, 遠藤信行, 加藤 覚 2013 年 5 月 有機溶媒中における低温創製バイオマス炭吸着 α -キモトリプシンの触媒活性, 分離技術会年会 2013, S4-P3, 千葉.

栗原駿一, 乗富秀富, 遠藤信行, 加藤 覚 2013 年 5 月 水溶液中における低温創製バイオマス炭吸着 α -キモトリプシンの触媒特性, 分離技術会年会 2013, S4-P2, 千葉.

乗富秀富, 石山玲央奈, 岩井大輝, 遠藤信行, 加藤 覚 2013 年 9 月 卵白リゾチームの触媒特性に及ぼすバイオマス炭界面の影響, 第 64 回コロイドおよび界面化学討論会, P152, 名古屋.

栗原駿一, 乗富秀富, 遠藤信行, 加藤 覚 2013 年 10 月 竹炭への固定化による α -キモ

トリプシンの熱安定化, 第3回 CSJ 化学フェスタ, P2-84, 東京.

西上純平, 乗富秀富, 遠藤信行, 加藤 覚 2013 年 10 月 竹炭への固定化による α -キモトリプシンの非水媒体中における触媒活性の向上, 第3回 CSJ 化学フェスタ, P2-81, 東京.

3. その他

乗富秀富 2013 年 11 月 22 日 バイオマス炭のたん白質担体への応用について, 化学工業日報, 金曜日版 5 面.

4) 特定学術研究

科研費による研究

基盤研究(C)・乗富秀富・低温創製バイオマス炭吸着タンパク質の熱安定化特性

5) 指導学位論文リスト

修士 (工学)

内田 雄 「バイオマス炭へのペルオキシダーゼの吸着性」

【竹宮 健司】

1) スタッフ紹介

竹宮 健司 (たけみや けんじ) 教授/博士 (工学)

建築計画, 環境行動研究

9-869 室, 042-677-1111 内線 4778 takemiya-kenji@tmu.ac.jp

2) 研究概要

1. 救命救急センターの建築計画に関する研究

竹宮健司

近年の医療技術の進歩や疾病構造の変化に対応した救命救急センターの建築計画指針の設定が求められている。今年度は, ER 型の救命救急センターの整備状況および空間構成に

関する成果が得られた。

2. がん医療の進展に対応した施設計画に関する研究

竹宮健司

先駆的な地域を対象として、がんサロンおよびがん相談支援センターの利用実態調査を実施し、包括的ながん相談支援環境に関する検討を行った。病院外に設置された相談支援施設の利用特性に関する検討を行った。また、緩和ケアを提供する有床診療所の利用実態分析を行った。

3. 新生児集中治療病棟の建築計画に関する研究

竹宮健司

全国の新生児集中治療病棟の整備状況を把握すると共に、先駆的な新生児集中治療病棟の実態調査から、新たな病棟計画に関する知見を導出した。

4. 高齢者・障がい者のための居住環境整備に関する研究

竹宮健司

高齢者や障がい者が住み慣れた地域や居住施設に住み続けられるためには、適切な支援サービスの提供とともに居住環境の整備も重要な要因となる。今年度は、以下の研究テーマにおいて具体的な成果があった。1) 古民家の空間構成を活用した宅老所の建築計画、2) 重症心身障がい児者レスパイトケア施設の施設整備状況・利用実態分析

3) 成果リスト

2. 口頭発表

竹宮健司・上赤坂典幸 重症障がい児者の在宅ケア状況とレスパイトケア施設の現状分析
重症心身障がい児者レスパイトケア施設の建築計画に関する研究 その4, 日本建築学会大会学術講演梗概集 E-1 分冊, p. 563-564, 2013 年

上赤坂典幸・竹宮健司 重症心身障がい児者施設における通所・短期入所サービスの現状分析
重症心身障がい児者レスパイトケア施設の建築計画に関する研究 その3 日本建築学会大会学術講演梗概集 E-1 分冊, p. 561-562, 2013 年

田龍一・竹宮健司 47 都道府県のがんサロン開設状況 がん医療の発展に対応した医療施設計画に関する研究 その7 日本建築学会大会学術講演梗概集 E-1 分冊, p. 151-152, 2013 年

横森圭・島津江玲奈・小林健一・竹宮健司 救命救急センター僅少地域における救急医療システム・施設計画の実態分析 救命救急センターの治療環境に関する研究 その8 日本建築学会大会学術講演梗概集 E-1 分冊, p. 149-150, 2013 年

青木桜子・竹宮健司・石橋達勇・小林健一 新生児集中治療病棟の治療・ケア環境に関する研究 日本建築学会大会学術講演梗概集 E-1 分冊, p. 199-200, 2013 年

市倉健太・竹宮健司 診療所 HT における参与観察調査報告 緩和ケアを提供する有床診療所の施設運営・計画に関する研究 その2 日本建築学会大会学術講演梗概集 E-1 分冊, p. 215-216, 2013 年

石川咲貴子・竹宮健司 駅型保育園の施設運営・計画に関する研究 都内鉄道会社所有保育園を対象として 日本建築学会大会学術講演梗概集 E-1 分冊, p. 313-314, 2013 年

北原英明・竹宮健司 託老所 A における続き間の利用特性 古民家の空間構成を活用した小規模高齢者施設に関する研究 その2 日本建築学会大会学術講演梗概集 E-1 分冊, p. 537-538, 2013 年

金聖龍・竹宮健司 宅老所 KS における13年間の利用者記録分析 日本建築学会大会学術講演梗概集 E-1 分冊, p. 539-540, 2013 年

嶺野あゆみ・竹宮健司 視覚障がい者の散策行動特性からみた支援環境に関する研究 日本建築学会大会学術講演梗概集 E-1 分冊, p. 817-818, 2013 年

ブイ ティー テウ ハー・竹宮健司 留学生宿舍の施設運営・計画に関する研究 東京都内国公立大学を対象として 日本建築学会大会学術講演梗概集 E-1 分冊, p. 409-410, 2013 年

3. その他

新聞・雑誌 竹宮健司：病室計画の動向と課題, 医療福祉建築 182 号, pp. 8-9, 2014 年 1 月

4) 特定学術研究

文部科学省科学研究費 (挑戦的萌芽研究)

竹宮健司 (代表)

非制度依存型地域ケア施設の継続的実践分析に基づく地域生活支援システム・環境の構築

竹宮健司 (分担)

文部科学省科学研究費 (基盤研究 C)

超急性期病院における可搬型 ME 機器使用部門の管理運営手法と建築計画の再編

5) 指導学位論文リスト

修士（工学）

市倉健太 「有床診療所における緩和ケアの実践と施設計画に関する研究」

北原英明 「小規模高齢者施設の施設運営・利用実態に関する研究—託老所 A における継続調査から—」

【玉川 英則】

1) スタッフ紹介

玉川 英則（たまがわ ひでのり） 教授／工学博士

都市・地域解析，都市・地域計画

9-556 室 TEL：042-677-1111 内線 4275 htama@tmu.ac.jp

2) 研究概要

1. 都市空間解析、GIS の応用研究に関する研究交流

玉川英則

Toronto 大学、MIT、ITC (The Faculty of Geo-Information Science and Earth Observation, University of Twente)、それぞれの都市空間解関連のスタッフと交流し、大学・学域紹介及び自身の研究紹介のプレゼンを行うとともに、先方の状況を見学した。また、MIT では GIS ビッグデータを利用したプロジェクトのワークショップにオブザーバとして参加した。以上から得られた情報については、今後の教育・研究への活用を検討中である。

2. 都市論に関する研究

玉川英則・宮崎洋司

Boston College の Burns Library にある同館の特設文庫・Jane Jacobs Papers において、ジェーン・ジェイコブズ関連の詳細な資料の収集を行った。またその際、Jane Jacobs へのインタビュー（1990 年）を録画した DVD を同館へ寄贈、上記特設文庫の資料の 1 つとして

納められた (Tamagawa が 2 度行ったインタビューのうちのもう 1 つ (1999 年) の DVD はすでに同庫に納められていた)。さらに、Jane Jacobs の長男・James Jacobs 氏へのインタビューも行っている。さらに、Boston 市内における各種都市再生事例の調査、BRA (Boston Redevelopment Authority) での統計資料の収集、特徴的な技術教育機関・SETC (South End Technology Center) の調査と主宰者・Melvin King 氏へのインタビュー等も行っている。以上の成果の一部は、すでに一般財団法人住総研へ提出した研究報告にまとめられている。

3. 震災被災地の復興に関する研究

玉川英則・河村信治・市古太郎・野澤康及び各研究室所属学生

東日本大震災の被災地・岩手県野田村に 3 回・通算約半月ほど滞在、現地の復興状況・生業の状況を踏まえ、2013 年 8 月にシャレット・ワークショップを共催 (工学院大学、八戸高専、弘前大学、京都大学、大阪大学とともに) し、2014 年 2 月には、村民・関係者への提言発表会を開催し、活発な討論を行った。これは、科学研究費助成課題の 2 年度目における成果となっている。

3) 成果リスト

1. 審査論文

山崎明子・玉川英則・中林一樹：街づくり事業地区における細街路整備手法と市街地の地域的特徴との関係，日本建築学会計画系論文集，第 694 号， pp.2547-56，2013.12

2. 口頭発表

Masahiro Kameyama and Hidenori Tamagawa, “Land use simulation model and contiguity indices with its applications by three dimensional vector data”, Joint Meeting of Korean, Chinese and Japanese Scholars, Cooperative Development of Great Cities in North East Asia, 2013.09

3. その他

3-2. 研究報告

「日本の一般市街地の住みよさ向上のための計画論に関する研究 —ジェイコブズ都市論の再評価と日本における適用可能性—」 宮崎洋司・玉川英則、『住総研研究論文集』、No. 40—研究 No.1207、pp.71-82

3-4. その他

Hidenori Tamagawa, “Tokyo Metropolitan University and Department of Urban Science” and “Sustainable Cities – especially as for stability of population”, presentation at ITC (The Faculty of Geo-Information Science and Earth Observation, University of Twente), 2013.11.25

住総研シンポジウム『『一般市街地』の魅力と持続可能性を考える－混在性と柔軟性の再評価－』コメンテーター、2014.02.21

『教育改革推進事業「アジア地域の都市問題に関する学際的グローバル教育交流プログラム－ソウル市立大学との学術交流協定の活用・発展－」(2012年度－13年度)』成果報告書(編集代表)、2014.03

4) 特定学術研究

文部科学省科学研究費

「岩手沿岸北部被災地復興における地域連携型のコンパクトな居住モデルの導出」(基盤研究(C)) 代表 玉川英則 2012年度－14年度 430万円

5) 指導学位論文リスト

博士(都市科学)

山崎明子 「東京区部における市街地の防災性能向上を目的とした細街路整備諸施策のあり方に関する研究」

修士(都市科学)

大石裕貴 「地域の居住者構成と公共施設・住宅の立地との関連に関する研究」

岡智史 「廃線による都市構造の変容に関する研究」

角谷学 「宅地の高度利用化における3階建て住宅の動向に関する研究」

鳥海活哉 「大震災時の木造住宅密集地域への帰宅困難者とその対策に関する研究」

【長野 基】

1) スタッフ紹介

長野基（ながのもとき） 准教授／修士（政治学）

都市行政、地方自治、ローカル・ガバナンス

9-560 室 電話 042-677-1111 内線 4163 E-mail : nagano@tmu.ac.jp

2) 研究概要

1. 自治体政策の形成と議会への市民参加の研究

長野基

自治体議会への市民参加について議会改革に関する全国アンケート調査や議会基本条例の動向等から分析した。2009年から2013年の各年調査全てに回答した市区町村議会（政令市を除く）をパス解析により分析した結果、「市民との対話の場」を設けた経験の有無は、「議員間討議の実施」の有無と議員個人による「議案賛否公開」の実施の有無という2つの変数を「経由」して、「議案修正経験」と「議会（議員）立法経験」に作用していることが明らかになった。

2. 基礎自治体における係争的施策領域への無作為抽出型市民参加手法の適用に関する研究

長野基

理論的研究と並行して、アンケート調査と参与観察による研究を進めた。具体的には住民基本台帳から性別・年齢などで「住民の代表性」を調整した無作為抽出型招聘方式の採用が拡大する「事業仕分け」に関して、実際に「事業仕分け」の取組みでコーディネーターや準備会委員を担当した自治体における参与観察とヒアリング調査からの分析、そして平成25年1月～2月に行った埼玉県・東京都・神奈川県内自治体（行政改革担当部署対象）でのアンケート調査からのデータ解析を行った。

3) 成果リスト

2. 口頭発表

長野基（2013）『『市民と議会の現段階と到達点』議会調査 2013 結果報告』,市民と議員の条例づくり交流会議 2013（第13回）, 2013年7月（法政大学市ヶ谷キャンパス）

Motoki Nagano, “Project assessment by deliberative democracy-based participation in government: A case study of the Citizen Conference on the Second Municipal Implementation Plan for Shinjuku City, Tokyo”. 2nd International Conference,

Development and Cooperation among the Mega-cities in East Asian Countries: Korea, China and Japan, September 2013, University of Seoul, Seoul, Korea

3. その他

3 - 1. 専門書

『議会改革白書 2013年版—成果志向の実線とアプローチ』（廣瀬克哉・自治体議会改革フォーラム編）（生活社）、共著

<主な分担執筆箇所>

長野基 (2013) 「条文分析 2012年制定の議会基本条例に見える議会改革の動向」, pp. 74-93

長野基 (2013) 「全国自治体議会の運営に関する実態調査 2013 調査結果概要」, pp. 124-133

長野基 (2013) 「議会改革の”成果”と議会（議員）立法」, pp. 243-247

3 - 3. 解説・評論、一般論文

長野基 (2013) 「議会への市民参加の『成果』とは」自治日報 (2013年9月27日)

長野基 (2013) 「書評西尾勝著『自治・分権再考』」季刊行政管理研究 (143), 43-46

3 - 4. その他

○「都議会の位置づけについて」日本経済新聞（夕刊・「2013 都議選—見えない巨大議会（中）」・2013年5月15日）（コメント）

○「今後の議会基本条例の制定プロセスについて」毎日新聞（埼玉版・埼玉中央・2014年2月8日）（取材コメント）

○講演

長野基 (2014) 「市民討議会は自治体の意思判断に役立っているのか？—実証研究の視点から—」日本プランニングスツェレ研究会・NPO 法人市民討議会推進ネットワーク共催「第7回市民討議会見本市—地方自治が日本を創る」日本青年館 (2014年3月1日)

★受賞

自治体学会「自治体学研究奨励賞」(2013年11月)

【星 旦二】

1) スタッフ紹介

星 旦二 (ほし たんじ) 教授/医学博士
公衆衛生学, 都市健康科学

2) 研究概要

都市の健康水準改善と健康維持要因に関する研究

星 旦二

都市の健康水準とその規定要因を研究してきた。特に、高齢者の健康維持要因追跡研究として、都市 1.3 万人、地域 2.2 万人、合計 3.5 万人の生存追跡研究を実施し、健康寿命を規定する要因について、研究を実施し、以下の論文と学術書を作成した。

3) 成果リスト

1. 審査論文

都市在宅高齢者における 3 年後の等価収入額に寄与する社会経済的要因と主観的健康感および生活習慣 パス解析；星 旦二，井上 直子，湯浅 資之，藤原 佳典，高城 智圭，高橋 俊彦，櫻井 尚子：日本健康教育学会誌(1340-2560)21 巻 1 号 Page3-12(2013. 02)

慢性心不全患者の療養セルフマネジメントの構造分析；久保 美紀，山下 香枝子，星 旦二：保健医療福祉連携(1883-6380)5 巻 2 号 Page54-64(2013. 03)

介護保険事業に従事する専門家と一般人における要介護度別の効用値測定尺度の検証と比較；栗盛 須雅子，福田 吉治，星 旦二，大田 仁史：茨城キリスト教大学看護学部紀要(1883-9525)4 巻 1 号 Page3-10(2013. 03)

茨城県市町村の健康余命(寿命)と健康格差の関連要因；栗盛 須雅子(茨城キリスト教大学看護学部)，福田 吉治，澤田 宜行，山田 大輔，星 旦二，大田 仁史：厚生指標(0452-6104)60 巻 3 号 Page1-8(2013. 03)

日本の地域高齢者における社会関係性と健康的な生活との関連構造(An analysis of the relation between social interaction and healthy life among the community-dwelling elderly in Japan)(英語)；王 碩，楊 素?，孔 凡磊，中山 直子，艾 斌，星 旦二：社会医学研究(0910-9919)30 巻 2 号 Page107-116(2013. 06)

地域を挙げたヘルス・プロモーションの推進とその効果(特集 地域ぐるみのヘルス・プロモーションの展開)；星 旦二：市政 62(2)，13-15，2013-02

The effects of socio-economic status and physical health on the long-term care needs of Japanese urban elderly: a chronological study. ; Vol. 18, No. 1, 33-9, 2013 Jan
Environmental health and preventive medicine: Yang Suwen, Hoshi Tanji, Nakayama Naoko,

Wang Shuo, Kong Fanlei

Socioeconomic Status, Comorbidity, Activity Limitation, and Healthy Life Expectancy in Older Men and Women: A 6-Year Follow-Up Study in Japan. Vol., No.2014 Jan 26;

Journal of applied gerontology : the official journal of the Southern Gerontological Society; Yang Suwen, Hoshi Tanji, Wang Shuo, Nakayama Naoko, Kong Fanlei

The Effects of Family Dentists on Survival in the Urban Community-dwelling Elderly.

American Journal of Medicine and Medical Sciences 2013;3(6),156-165, R. Tano,

T. Hoshi, T. Takahashi, N. Sakurai, Y. Fujiwara, N. Nakayama

Causal relationships between survival rates, dietary and lifestyle habits, socioeconomic status and physical, mental and social health in elderly urban dwellers in Japan: A chronological study

Tanji Hoshi, Motoyuki Yuasa, Suwen Yang, Sugako Kurimori, Naoko Sakurai, Yoshinori Fujiwara Health Vol.5, No.8, 1303-1312 (2013)

<http://dx.doi.org/10.4236/health.2013.58177>

2. 学会発表

社会医学と産業ストレス 社会医学からみた健康支援環境; 星 旦二: 産業ストレス研究 (1340-7724)21 巻 1 号 Page26(2013.11)

かかりつけ歯科医師と口腔衛生 芝エビ研究会の 5 年間の歩み; 矢吹 義秀(港区芝歯科医師会), 古藤 真実, 小林 憲司, 谷村 秀樹, 西辻 直之, 福澤 洋一, 中曾根 隆一, 木村 充, 田野 ルミ, 井上 和男, 星 旦二: 日本公衆衛生学会総会抄録集 (1347-8060)72 回 Page497(2013.10)

茨城県の健康余命(寿命)と健康格差の関連要因分析; 栗盛 須雅子(日本保健医療大学 保健医療学部), 福田 吉治, 澤田 宜行, 山田 大輔, 舟生 安志, 星 旦二, 大田 仁史: 日本公衆衛生学会総会抄録集 (1347-8060)72 回 Page459(2013.10)

高齢者の Generativity(世代性)と同居家族の種類との関連; 大場 宏美(東京都健康長寿医療センター東京都老人総合研究所 社会参加と地域保健研究チーム), 藤原 佳典, 村山 陽, 野中 久美子, 安永 正史, 倉岡 正高, 竹内 瑠美, 西村 真由美, 星 旦二: 日本公衆衛生学会総会抄録集 (1347-8060)72 回 Page455(2013.10)

The structural analysis of survival days among Japanese urban elderly people(和訳中)(英語); 王 碩, 孔 凡磊, 中山 直子, 星 旦二: 日本公衆衛生学会総会抄録集 (1347-8060)72 回 Page452(2013.10)

都市近郊在宅高齢者のソーシャルキャピタルに関連する要因の探索的分析; 湯浅 資之, 星

旦二：日本公衆衛生学会総会抄録集(1347-8060)72回 Page395(2013.10)

住民と協働する保健師の健康づくり支援機能モデル；高嶋 伸子(香川県立保健医療大学 看護学科)，星 旦二，櫻井 尚子：日本公衆衛生学会総会抄録集(1347-8060)72回 Page278(2013.10)

都市郊外高齢者における食生活を含む3年後生存の諸要因の相互関連；藤井 暢弥，星 旦二：日本健康教育学会誌(1340-2560)21巻 Suppl. Page140(2013.06)

児童・生徒の Well-being と保護者の健康への心がけとの関連と実践的な支援に対する検討；中山 直子(聖路加看護大学看護実践開発研究センター)，星 旦二，高橋 俊彦，Yang Suwen, Wang Shuo, Kong Fanlei；日本健康教育学会誌(1340-2560)21巻 Suppl. Page111(2013.06)

共分散構造分析を活用する因果構造分析事例；星 旦二：日本健康教育学会誌(1340-2560)21巻 Suppl. Page82-83(2013.06)

日本の地域高齢者における社会関係性と健康的な生活との関連構造(An analysis of the relation between social interaction and healthy life among the community-dwelling elderly in Japan)(英語)；王 碩，楊 素?，孔 凡磊，中山 直子，艾 斌，星 旦二：社会医学研究(0910-9919)30巻2号 Page107-116(2013.06)

専門家と一般人における介護度別の効用値測定尺度の検証および比較；栗盛 須雅子，福田 吉治，星 旦二，大田 仁史：保健医療社会学論集(1343-0203)24巻特別 Page42(2013.05)

健康長寿を実現する住まいとコミュニティの創造に関する実践的研究(健康,環境工学 I,2013年度日本建築学会大会(北海道)学術講演会・建築デザイン発表会)；伊香賀 俊治，星 旦二，白石 靖幸，安藤 真太郎，海塩 涉，柳澤 恵:学術講演梗概集 2013(環境工学 I)，1095-1096，2013-08-30

居住環境における健康維持増進に関する研究(その71)：大規模WEB調査に基づく健康コミュニティチェックリストの改訂(健康,環境工学 I,2013年度日本建築学会大会(北海道)学術講演会・建築デザイン発表会)；安藤 真太郎，伊香賀 俊治，村上 周三，白石 靖幸，星 旦二，加藤 龍一，樋野 公宏，川久保 俊；学術講演梗概集 2013(環境工学 I)，1093-1094，2013

3. その他

3-1. 専門書

星 旦二編著 公衆衛生 医学書院 2013

星 旦二編著 保健医療福祉行政論 日本看護協会 2013

すぐにできる共分散構造分析；星旦二著；ライフ出版社 2013

5) 指導学位論文リスト

博士 (都市科学)

Yang Suwen “The Effect of Socioeconomic Status on Healthy Life Expectancy of the Elderly in Japan”

久保 美紀 「循環器系疾患を有する都市住民における Quality of Life 維持・向上の関連構造分析 —本人の主体性を尊重した新しい支援方法の提案に向けて—」

高城 智圭 「乳幼児を育てる親の認識・役割と支援環境と Quality of Life との関連構造」

田野 ルミ 「都市住民の口腔ケアと口腔衛生と Quality of Life との関連構—健康長寿のための“かかりつけ歯科医”の存在意義—」

修士 (都市科学)

柏崎真佐子 「都市高齢者の老化の認識及び精神的健康度と健康行動との関連構造」

朱 艶菊 「中国上海市における高齢者孤独感の関連要因構造分析」

【山本 薫子】

1) スタッフ紹介

山本薫子(やまもとかほるこ)

准教授／博士 (社会学) 都市社会学、地域社会学、コミュニティ論、社会調査

9-154 室、TEL:042-677-1111 内線 4233 kahoruko@tmu.ac.jp

2) 研究概要

1. 都市インナーエリアの社会的変容・再編に関する研究

山本薫子

横浜・寿町地区、およびカナダ・バンクーバー市の Downtown Eastside 地区を対象地域として、都市インナーエリア地域の社会構造変容に関する研究を行った。特に (1) グローバル化・脱工業化にともなう産業構造の変容、(2) 行政や NPO らか主導する「まちづくり」

施策および都市計画の実施過程、(3) 地域団体、マイノリティ支援団体による地域での活動と社会運動の展開状況、について社会調査を実施した。そして、上記の各事項が地域コミュニティの変容・再編にどのように影響しているか、その結果、住民の社会状況はどのように変化しているか、データに基づいた分析を行った。

2. 原発避難の実態把握に関する研究

山本薫子・社会学広域避難研究会

2011年3月に発生した福島第一原発事故にともなう警戒区域のうち富岡町からの避難者の生活、意識調査の動向を探るため、研究会としてインタビュー調査、分析を実施した。本年度は、広域避難問題に関わる他の社会学研究者と合同で研究会等を開催し、この問題に関する学術研究の発展に努めた。

3. 旧産炭地における社会構造変化に関する研究

山本薫子・産炭地研究会

閉山後の地域社会の変化について、産業構造の転換が労働者とその家族、地域住民の生活変化を軸に明らかにするため、北海道釧路市等での調査を実施した。

3) 成果リスト

1. 審査論文

山本薫子、「現代日本社会の都市下層地域における福祉ニーズ増大と地域課題の再編—横浜・寿町の事例から」、「日本社会学会年報」31、pp. 95-110、2013年9月。

2. 口頭発表

山本薫子、「都市インナーエリアにおけるアートプロジェクトの展開と地域社会への関与—横浜市を中心に」、地域社会学会第38回大会自由報告部会、2013年5月11日、立命館大学。

山下祐介、佐藤彰彦、山本薫子、高木竜輔、2013「原発避難者を取り巻く問題の構造(1)—避難者調査の概要と課題」、地域社会学会第38回大会、立命館大学、2013年5月11日。

佐藤彰彦、山下祐介、山本薫子、高木竜輔、2013「原発避難者を取り巻く問題の構造(2)—タウンミーティングの結果から」、地域社会学会第38回大会、立命館大学、2013年5月11日。

山本薫子、2013、「原発避難者とは誰か—連帯の困難と分断をめぐる問題」、関東社会学会第60回大会テーマ部会A「リスク・個人化・社会不安(社会運動・社会政策)Ⅱ」、一橋大学、2013年6月16日。

山本薫子、「カナダ・バンクーバーにおける都市下層地域の社会構造変化と市民運動の展開」、日本都市社会学会第31回大会自由報告部会、2013年9月14日、熊本大学。

Kahoruko YAMAMOTO, 'Social Inequality and Policy for the Evacuees from the Fukushima Nuclear Power Plant Accident', UOS-TMU Joint Seminar, University of Seoul, September 27, 2013.

3. その他

3-2. 研究報告

山本薫子、「北米都市におけるジェントリフィケーションの展開-バンクーバー・ダウンタウンイーストサイド地区の現在」、「10+1 website」、2013年7月
<http://10plus1.jp/monthly/2013/07/issue02.php>

4) 特定学術研究

文部科学省科学研究費

研究種目： 若手研究(B)

研究課題名：「現代都市下層地域の社会構造再編過程分析のための国際比較研究」

代表： 山本薫子

研究種目： 基盤研究(A)

研究課題名：「旧産炭地のネットワーキング型再生のための資料救出とアーカイブ構築」

代表者： 中澤秀雄

研究種目： 基盤研究(A)

研究課題名：「東日本大震災と日本社会の再建-地震、津波、原発震災の被害とその克服の道」 代表者： 加藤眞義

研究種目： 基盤研究(C)

研究課題名：「石炭産業終息期における炭鉱と地域社会：“最後のヤマ”のライフコース」

代表者： 嶋崎尚子

研究種目： 挑戦的萌芽研究

研究課題名：「原発事故に伴う広域避難と支援の社会学—「転換後」の社会像と生き方モデルの探究」 代表者： 後藤範章

5) 指導学位論文リスト

修士（都市科学）

芳賀羊介 「米軍ハウスをめぐる社会環境の変遷と地域における役割の変化—福生市・瑞穂町を中心に—」